

記載例

特定施設（有害物質貯蔵指定施設）設置（使用、変更）届出書

不要な文字を抹消

令和〇年〇月〇日

京都府南丹保健所長 様

届出者住所 南丹市〇〇町〇〇△番地

名 称 水質 太郎

代表者氏名
電 話 水質 太郎（0771-〇〇-〇〇〇〇）
担当者職氏名
電 話

水質汚濁防止法第5条第1項、第2項又は第3項（第6条第1項又は第2項、第7条）の規定により、特定施設（有害物質貯蔵指定施設）について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		水太郎	※整 理 番 号	
工場又は事業場の所在地		〒〇〇〇-△△△△ 南丹市〇〇町〇〇△番地	※受理年月日	年 月 日
第5条第1項関係	特定施設の種類	66の3イ、ロ、ハ 旅館業の用に供するちゅう房施設、洗たく施設、入浴施設	※施 設 番 号	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 ☐ 無 ☒	※審 査 結 果	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	【御注意】 ●宿泊定員、食事提供の有無、流しや浴槽の仕様や水回り設備の配置が確定した後に作成して下さい。 ●浄化槽がある場合は、市役所・町役場・自治会、土木事務所に問題ないことを確認願います。	
	△特定施設の設備（有害物質使用特定施設の場合に限る。）			
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
△排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。			
第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類			
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。		
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。		
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。		
	△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。		

様式第1 (裏面)

第5条第3項関係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	☐ 有害物質使用特定施設 ☐ 有害物質貯蔵指定施設		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造			
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備			
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法			
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統			

- 備考
- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる番号及び名称（指定地域特定施設にあつては、名称）を記載すること。
 - 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙1の2を提出することを要しない。
 - 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入すること。
 - 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 5 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 6 排水水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
 - 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。
 - 9 氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあつてはその代表者）が署名することができる。

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	1 ちゅう房	2、3 浴室
特定施設号番号及び名称	66の3イ ちゅう房施設	66の3ハ 入浴施設
型 式	〇〇製 △△-◇◇型	〇〇製 △△-◇◇型
構 造	壁:タイル、漆喰 床:フローリング	ユニットバス FRP製
主 要 寸 法	3.56m× 2.8m 面積 10㎡	浴室: W1.6m、D1.6m、H2.13m 浴槽: W1415mm、D660mm、H480mm(上) W1150mm、D489mm、H480mm(底)
能 力	10食/日 (宿泊定員 5人)	1人/回 (宿泊定員 5人)
配 置	別図1のとおり	別図1のとおり
設 置 年 月 日	平成30年11月10日	令和 年 月 日
工事着手予定年月日	令和 年 月 日	令和 2 年 6 月16日
工事完成予定年月日	令和 年 月 日	令和 2 年 7 月15日
使用開始予定年月日	令和 2 年 7 月25日	令和 2 年 7 月25日
その他参考となるべき事項	既存設備をそのまま利用し、工事がない場合は旅館業の開始予定日を記載 (届出日の 61 日以後)。	同型2基設置

工事がある場合は工事着手予定年月日等を記載
(届出日の 61 日以後)

備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。

2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	4 洗濯室	
特定施設号番号及び名称	66の3口 洗たく施設	
型 式	洗濯機 ○○製 △×型	
構 造	ステンレス製	
主 要 寸 法	洗濯室 5.00m×2.8m 面積14m ² 洗濯機 幅643×奥行694×高さ1086(mm)	
能 力	12kg/回	
配 置	別図1のとおり	
設 置 年 月 日	令和 年 月 日	令和 年 月 日
工事着手予定年月日	令和 2 年 6 月16日	令和 年 月 日
工事完成予定年月日	令和 2 年 7 月15日	令和 年 月 日
使用開始予定年月日	令和 2 年 7 月25日	令和 年 月 日
その他参考となるべき事項		

- 備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
- 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1 ちゅう房		2、3 浴室	
特定施設番号及び名称		66の3イ ちゅう房施設		66の3ハ 入浴施設	
設置場所		別図1のとおり		別図1のとおり	
操業の系統		別紙6のとおり		別紙6のとおり	
使用時間間隔		6時～24時		終日	
1日当たりの使用時間		8時間		24時間	
使用の季節的変動		冬は3割減少		冬は3割減少	
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量		食料品 調理食数分(宿泊定員5人)		宿泊客数(宿泊定員5人)	
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	PH	6～8	5.8～8.6	7.1～8.2	5.8～8.6
	BOD (mg/L)	200	250	40	60
	COD "	50	130	40	60
	SS "	50	80	30	60
	N "	8	30	10	15
	P "	1.5	4	1	1.3
	油分 "	42	70	—	—
汚水の汚染状態について各項目通常・最大を記載してください。 他に実測値、予測値等があればそちらを記載してください。					
汚水等の量 (m^3 /日)		通常	最大	通常	最大
		0.2m^3	0.3m^3	0.4m^3	0.6m^3
その他参考となるべき事項		同型2基設置			

備考 汚水等の汚染状態は、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

実際に使用する水量について通常・最大を記載してください。未設置の場合は予測値で結構です。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		4 洗濯室			
特定施設番号及び名称		66の3口 洗たく施設			
設置場所		別図1のとおり			
操業の系統		別紙6のとおり			
使用時間間隔		6時～24時			
1日当たりの使用時間		8時間			
使用の季節的変動		—			
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量		洗剤 100ml			
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	PH	6～8	5.8～8.6		
	BOD（mg/L）	200	250		
	COD 〃	50	130		
	SS 〃	50	80		
	N 〃	8	30		
	P 〃	1.5	4		
	油分 〃	—	—		
汚水等の量（m ³ /日）		通常	最大	通常	最大
		0.2 m ³	0.3 m ³		
その他参考となるべき事項					

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

工場又は事業場における施設番号		し尿浄化槽(合併処理)							
処理施設の設置場所		別図1のとおり							
設置年月日		平成30年11月10日				年 月 日			
工事着手予定年月日		年 月 日				年 月 日			
工事完成予定年月日		年 月 日				年 月 日			
使用開始予定年月日		令和 2 年 7 月25日				年 月 日			
種類及び型式		合併浄化槽				浄化槽の運転状況を記載します。カタログ等があれば添付してください。 不明点はメーカーに問わせて下さい。 油水分離槽等が設置されている場合は右列に記載して下さい。			
構造		〇〇製							
主要寸法		幅1.00m×長さ1.50m×高さ1.50m							
能力		5人槽(1 m³/日)							
処理の方式		担体流動ろ過循環方式							
処理の系統		別紙6のとおり							
集水及び導水の方法		別図1のとおり							
使用時間間隔		終日							
1日当たりの使用時間		24時間							
使用の季節変動		冬は3割減少							
消耗資材の1日当たりの用途別使用量		消毒剤 600g/月							
汚水等の汚染状態及び量	種類・項目	通 常		最 大		通 常		最 大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	PH	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6				
	BOD (mg/L)	200	20	250	20				
	COD "	50	5	130	15				
	SS "	50	10	80	15				
	N "	10	10	30	20				
	P "	1.5	1	4	2				
	油分	42	2	70	3				
	大腸菌数 (CFU/mL)	—	500	—	800				
量 (m ³ /日)	1.0	1.0	1.4	1.4					
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法		汚泥0.1 m³/月を浄化槽管理者(〇〇)に処分委託				水量は浄化槽に入る全て汚水の合計です(ちゅう房+浴室+便所・洗面所等)。 水量・水質とも予測値で結構です。 汚水を下水道又は農業集落排水処理施設に接続している場合は、一番上の欄に「処理施設なし」、排出水の排出方法欄に「汚水は下水接続」と書き他は空欄として下さい。汲み取りの場合は一番上の欄に「処理施設なし」と書き他は空欄として下さい。			
排出水の排出方法		別図1のとおり							
その他参考となるべき事項									

- 備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。
- 2 排出水の排出方法の欄には、排出口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排出水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		No.1排水口			
排出水の汚染状態	種類・項目	通 常	最 大	通 常	最 大
	PH	5.8~8.6	5.8~8.6		
	BOD (mg/L)	20	20		
	COD "	5	15		
	SS "	10	15		
	N "	10	20		
	P "	1	2		
	油分 "	2	3		
	大腸菌数 (CFU/mL)	500	800		
排水水の量 (m ³ /日)		通 常	最 大		
		1.0m ³ /日	1.4m ³ /日		
その他参考となるべき事項		No.2排水口は雨水のみ			

浄化槽からそのまま側溝等に流される場合、別紙3の処理後の通常・最大の値と同じになります。

下水道又は農業集落排水処理施設に接続している場合は「その他参考となるべき事項」に「汚水は下水接続」である旨と雨水について書いて下さい。

(他は空欄)

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

排水水の排水系統別の汚染状態及び量

指定項目の別										COD		※	
工場又は事業場における施設番号	業種その他の区分	汚染状態 (mg/L)		水 量 (m ³ /日)					汚濁負荷量 (kg/日)				
		通常	最大	通常	最大	Q _{co}	Q _{ci}	Q _{cj}	通常	最大			
特定排水水	No.1	232	5	15	1.0	1.4				0.005	0.007		
合 計				1.0	1.4				0.005	0.007			
特定排水水以外の排水水	工場又は事業場における施設番号	種類及び用途	汚染状態 (mg/L)		水量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)						
			通常	最大	通常	最大	通常	最大					
	・ 由良川流域は作成不要 ・ 下水道又は農業集落排水処理施設に接続している場合は「その他参考となるべき事項」にその旨と雨水について記載し他は空欄としてください。												
合 計													
その他の参考事項	No.2排水口は雨水のみ。												

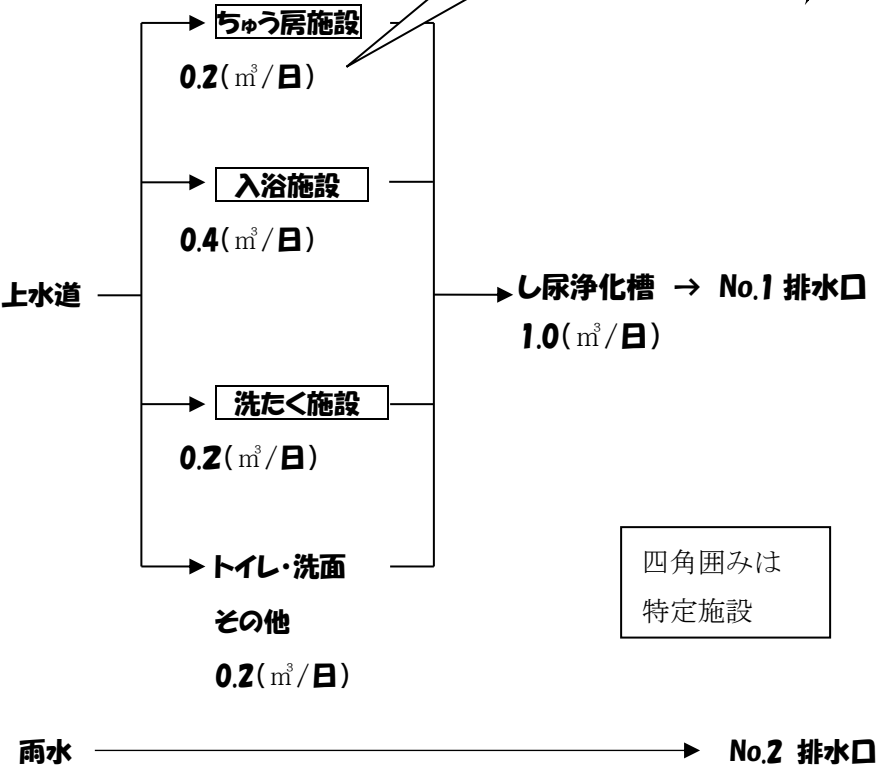
- 備考
- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
 - 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
 - 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{no}」と、「Q_{ci}」を「Q_{ni}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
 - 4 リン含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{po}」と、「Q_{ci}」を「Q_{pi}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
 - 5 ※印の欄には記載しないこと。

用水及び排水の系統

別紙 2 の「通常の汚水等の量」と同じになります

別図添付でも可

用水及び排水の系統



用 途 別 用水使用量	用 途	使 用 水	用水使用量 (m³/日)
	業務用水	上水道	1.0 m³/日

上記「し尿浄化槽」の量及び別紙 4 の通常の排出水の量と同じになります。

まだ事業を開始していない場合「令和〇年〇月〇日予定」としてください

府様式

工場又は事業場の概要

届出日としてください

令和〇年〇月〇日現在

工場又は事業場の設立年月日		(明・大・昭・ 平) 31年1月15日	
公害防止管理者		公害防止担当者	資本金(千円)
		水質 太郎	
業種	旅館業	産業分類番号(4桁)	7511
施設・工場施設番号対照表	別表1のとおり	従業員数	2
主要製品		排水流量計の有無	有・無 (記録装置 有・無)
環境保全協定	締結の有無	有・無	
	締結相手方		
	協定値		
放流先	No.1排水口 → 道路側溝 → 〇〇川 → 桂川 No.2排水口(雨水のみ)(同上)		
新設(変更)内容及び理由	宿泊施設開業に伴い、ちゅう房施設、洗濯施設及び入浴施設を新設する。 既存建物・施設を利用する場合も上記のとおり書いて下さい。		
処理施設の管理体制・方法	合併浄化槽の管理は浄化槽管理者(〇〇)に委託し、適切に点検・維持管理を行う。異常があれば適宜浄化槽管理者に連絡し、適切に対処する。 浄化槽がない場合は「処理施設なし」とのみ書いて下さい。		
排水監視の体制・方法	適宜排水口等の目視確認を行う。		
構造等に関する基準、定期点検の方法	—		
有害物質漏出時の措置体制・方法	府条例別紙6のとおり		

- 備考
- 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設が設置されていない場合は、構造等に関する基準・定期点検の方法の記入は不要です。
 - 有害物質使用特定施設(公共用水域に水を排出しない場合に限る)又は有害物質貯蔵指定施設のみが設置されている場合は、排水流量計の有無、放流先及び排水監視の体制・方法の記入は不要です。
 - 京都府環境を守り育てる条例で規定する汚水地下浸透防止対策の概要を添付している場合は、有害物質漏出時の措置体制・方法の記入は不要です。

別表 1

施設・工場施設番号対照表

工場又は 事業場に おける 施設番号	施設名 (法律記号－ 施設番号)	慣 用 施 設 名	申請又は届出年月日 [変更(最終)年月日]	区分 (設置・既設 変更・廃止 使用)	有害物質の 使用の有無 及び 使用物質名
1	ちゅう屑施設 (水－66の3イ)	厨房	令和2年4月8日 []	設置	無
2	入浴施設 (水－66の3ハ)	浴室	令和2年4月8日 []	設置	無
3	入浴施設 (水－66の3ハ)	浴室	令和2年4月8日 []	設置	無
4	洗たく施設 (水－66の3ロ)	洗濯室	令和2年4月8日 []	設置	無
			[]		
			[]		
			[]		

- 備考 1 施設名には、水質汚濁防止法施行令別表第1又はダイオキシン類対策特別措置法施行令別表第2の名称、該当する法律を示す記号（水又はダ）及び施設番号を記入してください。なお、指定地域特定施設及び有害物質貯蔵指定施設の場合は、それぞれ「指定」、「貯蔵」と記入してください。
- 2 申請又は届出年月日には、当該特定施設等に係る申請又は届出の年月日を記入してください。
- 3 変更（最終）年月日には、当該特定施設等の直近の変更申請又は届出の年月日を記入してください。
- 4 有害物質の使用の有無及び使用物質名には有害物質の使用がなければ「無」とし、有る場合は「有」とし、括弧内に物質名を記入してください。書ききれない場合は「別紙のとおり」とし、別紙を添付してください。

府条例別紙 6

汚 水 地 下 浸 透 防 止 対 策 の 概 要

地下浸透禁止物質の使用の有無	有・ 
使用する物質名	
1日当たりの使用量	
保管場所での地下浸透防止対策	
作業場所での地下浸透防止対策	
配管等からの地下浸透防止対策	
廃液の保管形態	
廃液保管場所からの地下浸透防止対策	
地下浸透禁止物質を含む汚水の処理方法	
地下浸透防止対策の管理体制・方法	
漏出時の措置体制及び措置の方法	
参 考 事 項	

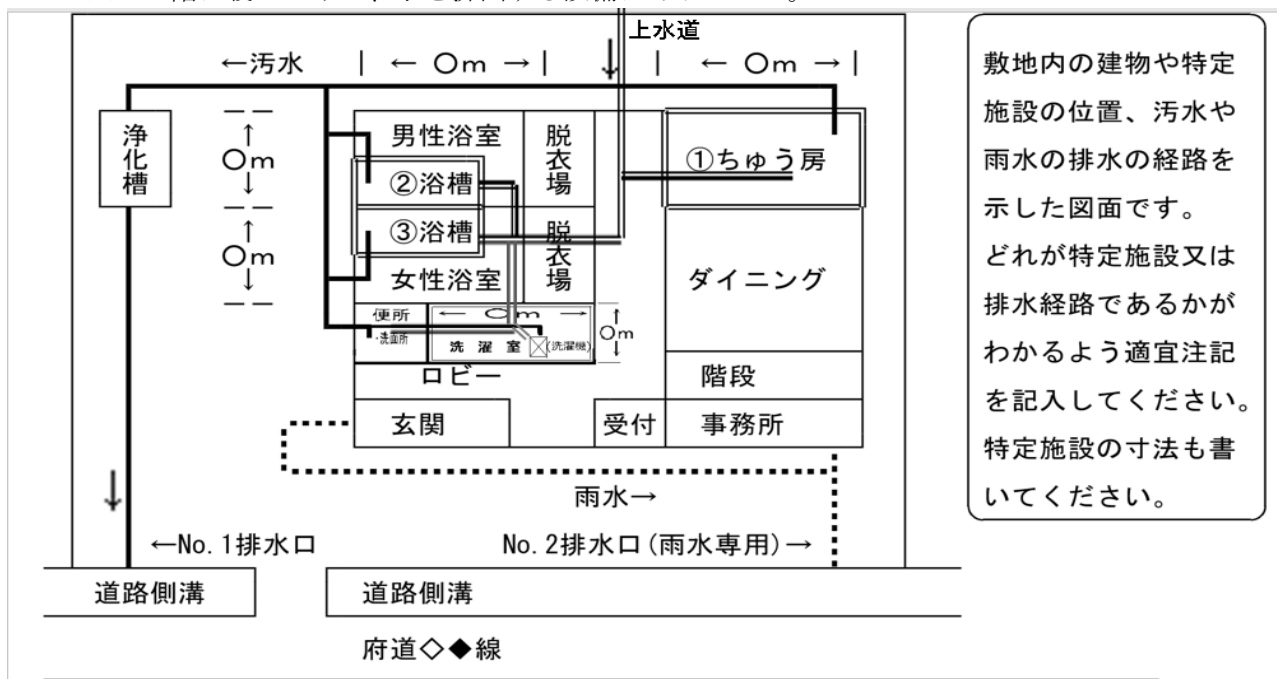
- 備考 1 変更のある場合は、変更前及び変更後の内容を対照させて記入してください。
- 2 保管場所、作業場所、配管等からの地下浸透の防止対策は、できる限り図面等を添付し、措置の概要を明らかにしてください。

別図 1

【特定施設の配置図(兼・集水及び導水の方法並びに排出水の排出方法図)】

※：二重線囲みは特定施設、丸数字は施設番号です。

※：2階は寝室のみで、水を排出する設備はありません。



【付近見取図(兼・放流経路図)】 ※既存地図への追記も可

